

4 現地情報

本年度における農業経営体、地域、農村等の動きや変化を旬の情報として、随時県庁ホームページにて情報提供しています。

農福連携による花摘み作業委託の開始！

～梨産地の花粉確保に向けた体制構築に向けて～

夷隅農業事務所改良普及課 令和6年5月24日発

中国での火傷病発生に伴う梨花粉輸入停止に伴い、生産者は授粉用花粉を自家採取により確保していく必要があります。そこで夷隅農業事務所では、梨産地の花粉確保における労力補完のため、社会福祉法人土穂会ピア宮敷を始めとした関係機関と連携し、農福連携による花摘み作業の委託を支援しました。その結果、2戸の生産者が4月3日、5日、8日、10日の計4日間にわたり作業委託しました。

生産者からは、「他の作業に充てられる時間が増えて助かる」「他の作業も委託したい」、社会福祉法人からは、「梨産地の役に立てて嬉しい」「外での大人数の仕事は楽しい」等の声が聞かれ、双方にとって利点のある取組となりました。

今後も農業事務所では、関係機関と密に連携し、梨産地の維持・発展に向け支援を行っていきます。



花摘み作業の様子

今年も夷隅地域の青年が集まる！

～令和6年度夷隅農業経営体育成セミナー開講～

夷隅農業事務所改良普及課 令和6年6月 19日 発

夷隅農業事務所では、地域の新規就農者育成を目的に、3年間のカリキュラムで「夷隅農業経営体育成セミナー」を開催しています。今年度は水稻の農業法人の雇用就農者1名、梨農家の親元就農者1名、野菜経営の新規参入者2名が加わり、総勢20名が受講します。

開講式では、指導農業士及び農業士から激励のお言葉を頂いた後、新規就農者、先輩農家及び関係機関職員全員で自己紹介を行いました。

第1回研修では地域農業や農福連携の事例紹介などの講義を行いました。また、アイスブレイクとして、ユニバーサルスポーツ「モルック」を行いました。参加者は皆、すっかり打ち解け、その後の意見交換会では、「商品の付加価値の付け方」や「直売所の悩み」などについて話が尽きず、終了後も熱心な情報交換が続きました。今後も当事務所では、本セミナーが青年農業者同士でつながり学び合う場となるよう働きかけていきます。



「モルック」による交流の様子



セミナー生同士で意見交換できました

第40回長夷ブラックアンドホワイトショウ開催！

～乳用牛の資質向上と改良増殖に向けて～

夷隅農業事務所改良普及課 令和6年6月27日発

6月3日、千葉県立茂原樟陽高等学校にて、夷隅地域と長生地域の酪農家主催による、第40回長夷ブラックアンドホワイトショウが開催されました。

今年は株式会社十勝家畜人工授精所の藤山茂氏を審査員として招き、県内から出品された計25頭の乳牛が改良増殖の成果を競いました。経産牛ではいすみ市の高橋大地さん、未經産牛では横芝光町の伊藤廣紀さんの出品牛がグランドチャンピオンに選ばれました。

また、出品牛を用いて牛の見方講習会を開催し、藤山審査員より乳牛を審査する時にどこを見ているのか、良い牛を見分けるポイントの講義がありました。講習会では酪農家、農業高校生が自身のレベルアップに向け真剣に説明を聞いていました。

農業事務所では、今後も乳牛改良による経営基盤の安定に取り組む酪農家の支援を行っていきます。



出品牛の審査風景



牛の見方講習会の様子

もっと学ぼう！もっと知ろう！果樹セミナーの開講

～果樹栽培に特化した新規就農者育成に向けて～

夷隅農業事務所改良普及課 令和6年8月23日発

夷隅農業事務所では、管内に「日本なし」を栽培する後継者・新規参加者が多いことから、令和4年度より農業経営体育成セミナーで「果樹（日本なし等）」の専門講座を開催しています。今回は「都市農業と6次産業化」をテーマとし、生産直売の他に加工品販売・農園カフェの運営や、SNSでの積極的な情報発信を行うなど、先進的な経営を行う東葛飾地域の果樹生産者2戸の視察を開催したところ、7名の参加がありました。

参加者からは、「自分の経営に取り入れていきたい取組もあり、参考としたい」「大規模経営の栽培管理、6次産業化などの事業の多角化について知ることができ、大変有意義だった」「夷隅地域と都市部における経営の違いを知ることができた」等の感想がありました。

今後も夷隅農業事務所では、新規就農者の育成・支援を通じた産地の維持・発展を目指し、取組を進めていきます。



情報交換会の様子



圃場視察の様子

繋げよう！岬の梨産地を次世代へ ～安定的な担い手確保と産地の維持拡大に向けて～

夷隅農業事務所改良普及課 令和6年9月13日発

一宮・岬梨組合岬支部では、生産者の高齢化等により、生産量の減少など産地の縮小が続いています。一方で、近年新規参入者や後継者の就農が相次いでおり、新しい担い手の確保が進んでいる産地でもあります。そこで岬支部では、令和4年度より今後の産地を担う若手生産者、各地区の中心生産者や関係機関が集い、今後の岬梨産地について討議・検討する「岬梨産地を考える会」を開催しています。8月23日の会議には17名の参加がありました。参加者からは、今後の産地維持に必要なことや足りないこと、経営上の悩みや改善点など様々な意見が挙がり、産地の将来を考えるきっかけとなりました。

今後も夷隅農業事務所では、産地維持に向けた話し合いを継続することで、将来的な岬梨産地の目指すビジョンを、生産者・関係機関一丸となり策定するとともに、新規就農者の育成・支援を通じた梨産地の維持・発展を目指し、取組を進めていきます。



産地のこれからについて、皆で意見交換をしました。



各々が考える課題について、グルーピングし共有しました。

大区画有機稲作水田でスマート農業技術の現地実証試験を実施！

～「いすみっこ」生産での水管理や雑草管理の省力化を目指して～

夷隅農業事務所改良普及課 令和6年11月15日発

いすみ市では、化学合成農薬・化学肥料不使用の「コシヒカリ」である「いすみっこ」生産の大規模農家への波及を目指していますが、1ha規模の大区画水田では高低差が大きいため抑草に必須の深水管理が十分に行えず、雑草多発による減収が課題となっています。

そこで農業事務所では、レーザーレベラーで均平にした有機稲作水田における、ほ場水管理システムの導入効果と、自動抑草ロボットによる雑草対策の現地実証試験を実施しました。5月17日には抑草技術の実演会（参加者50名）を開催し、実証試験の結果については、10月25日の検討会（参加者26名）で共有を図りました。

実証試験により、ほ場水管理システムで水管理作業時間の削減につながった一方、雑草多発田では、水田除草機での追加除草の必要性が明確になりました。農業事務所では省力雑草管理技術のマニュアル化を目指し、次年度も市と連携して更なる検証を実施予定です。



有機稲作ほ場での実演会の様子（5月17日）



実証結果の共有の様子（10月25日）